

これからの協会に向けて



伝える朗読・伝わる朗読

今年の博品館における「朗読の日」の公演はまた新たな実績を重ねました。天候にも恵まれ無事に二日間の朗読が博品館の空間に自然に心地よく響きましたが、無事という言葉を使うたび、その意味をかみしめます。すぐ後に起きた大災害、無事でなかった多くの人々を思いながら、無事という言葉の意味を反芻いたします。私たちの朗読の日はいつもの年にもまして、思いが深く刻まれますはずです。その思いを抱えながら、又新たな道を踏み出しました。

「NPO日本朗読文化協会」として、更に、その根幹である「朗読」という世界をどう大事にしていくか、自分自身の朗読を深めていく充実感と共に、自分どまりではなく朗読という表現手段で、朗読の喜びや力を聞く人々に伝えていく、伝えるだけではなく、聞く人の心に伝わる朗読をしていく、どうしたら伝わる朗読ができるか、うまい下手の技術ではなく、技術を超えて伝わっていく魅力…

当方は長い年月、放送の世界に関わり、数え切れないほど多くの人々の言葉…（言葉とは心と内容を載せるもの）その言葉

に耳を澄ませてきました。対談、司会、取材、朗読、その他、キャスターとしてアナウンサーとして放送人として、音声表現、文字表現、身体を通しての言葉…等々に関わってきました。物事をしっかり伝えることは、必要不可欠ですが、そのことに巧みな人はいても、心動かされることは多くはありませんでした。それだけに心に伝わり、心動かされた時のうれしさは格別です。

物事を「伝える力」だけでなく、聞く人の心に「伝わる力」…重くても軽くてもいい、明るくても暗くてもいい、その人なりの深い空気を自然に豊かに感じさせる魅力、上手い下手ではないその魅力。それが何か…むずかしくもあり、やさしくもあり…申し上げるまでもなく、これは皆様もお感じのことだと思います。

「NPO日本朗読文化協会」あれもこれもではなく、朗読という土台でお互いということ話し合えることは、貴重なことでもあります。

これからもよろしくお願いいたします。

（NPO日本朗読文化協会・名誉会長 加賀美幸子）

理事長就任の挨拶



朗読を通じ、活字文化に貢献する

この度、理事長として当協会でご一緒にご活動してゆくことになりました伊澤逸平です。

私は、2010年4月以降、監事として当協会のお手伝いをしてまいりましたが、先般の定例総会の議決を経て理事会において理事長に選任されました。

当協会の理念、すなわち、NPOとして当協会の存在意義は「朗読を通じ、活字文化に貢献すること」と考えております。定款にはこの理念の下「朗読文化の更なる普及と発展を目指し、朗読を考え、伝える心と表現を育み、魅力ある朗読世界を築くこと」と定めております。

私は12年間書店に勤務しておりましたが、この間、実に4分の1以上の書店が姿を消し、本離れ、活字離れに危機感を感じておりました。

そんな折、当協会を知り、朗読を通じ一人でも多くの方に本の素晴らしさを知ってもらえればお手伝いを引き受けた次第です。私の朗読に対するスタンスはこの時と全く変わらず、朗読の普及が活字文化に貢献するものと信じて理事長の職責を果たす所存であります。

会員の皆さんは、時に立ち止まり、時には振りかえり、自分の活動が協会の理念と目的に沿っているか確認して頂きたいと思っております。

協会には16年の歴史があります。これは社会貢献を果たしてきた証であり、積み重ねてきた努力は協会の大きな財産であります。これから皆さんと一緒に何をどうすればよいかを考え、行動し、協会の更なる発展の一助となるよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

（NPO日本朗読文化協会・理事長 伊澤逸平）

新しい体制のはじまり



「組織は10年経ったら見直せ」ということが昔から言われています。NPO日本朗読文化協会も設立されてからまる16年、変革の時期とも言えます。

1年半を掛けて検討の末、今年度から新しい体制で臨むことになりました。

私たちは慣れ親しんできた協会のため、身近なサークル活動のように思いがちですが、先日、協会でお世話になっている税理士の方から、「朗読文化協会は、東京都から認定されている、立派な非営利団体（NPO）なので、自覚して活動することが必要です」と助言されました。

新体制には大きな柱が2つあります。

1つは協会の芯である「朗読」を学ぶことを軸に置き「朗読を考える・伝える」とし、加賀美幸子名誉会長のご指導の許、進めていく部門です。

2つ目は協会の事業運営を行う部門で、「朗読文化の普及を

図る」とし、協会の財政、将来への新企画などを行う「企画室」、また、協会が行う事業の推進運営を司る「事業運営室」、協会の経理と会員及び一般社会への広報を行う「事務室」の3室があります。どの部門も、会員のボランティアとしての参加で成り立っています。

この16年の間に、私たちの活動も広く人々の知る所となりました。協会の目的でもある社会貢献として福祉施設訪問、図書館朗読、他の文化教室や学校からの長・短期講師派遣の要請も多く来るようになりました。私たちのお楽しみだけでなく、その質も問われ、「朗読」に対する真摯な思いが問われているように思います。

新体制と共に、「朗読」なら、NPO日本朗読文化協会といわれるような協会を、皆で目指してまいりましょう。

でも、遊び心も忘れず、楽しみながら!!

皆様の更なるご協力をお願いいたします。

(業務統括理事 阿部俐奈)

2018(平成30)年度役員・委員

理事：名誉会長

加賀美 幸子 ……NHK番組キャスター 放送人の会理事
千葉市男女共同参画センター名誉会長

理事長

伊澤 逸平 ……元(株)八重洲ブックセンター

業務統括理事

阿部 俐奈 ……元一級建築士事務所(有)日渉企画代表

天沼 澄夫 ……朗読プロデューサー

飯島 晶子 ……朗読家 (有)ヴォイススケ代表

松野 正義 ……(株)インターナショナル・カルチャー

監事：岩本 高明 ……元ハリウッド(株)SBM研究所所長

顧問：石川 剛 ……(株)エージ

伊藤 義文 ……(株)博品館

遠藤 潤 ……キングレコード(株)

久保谷 富美男 ……神田外語大学

壤 晴彦 ……NPO演劇倶楽部『座』主宰

野間 省伸 ……(株)講談社長

委員：企画室

○飯島 晶子 稲本 由美子 岩瀬 弥永子

小黒 三重子 前尾 津也子 松島 邦

見澤 淑恵 安田 綾子

事業運営室

○山村 都 伊吹 よし子 岡田 久美子

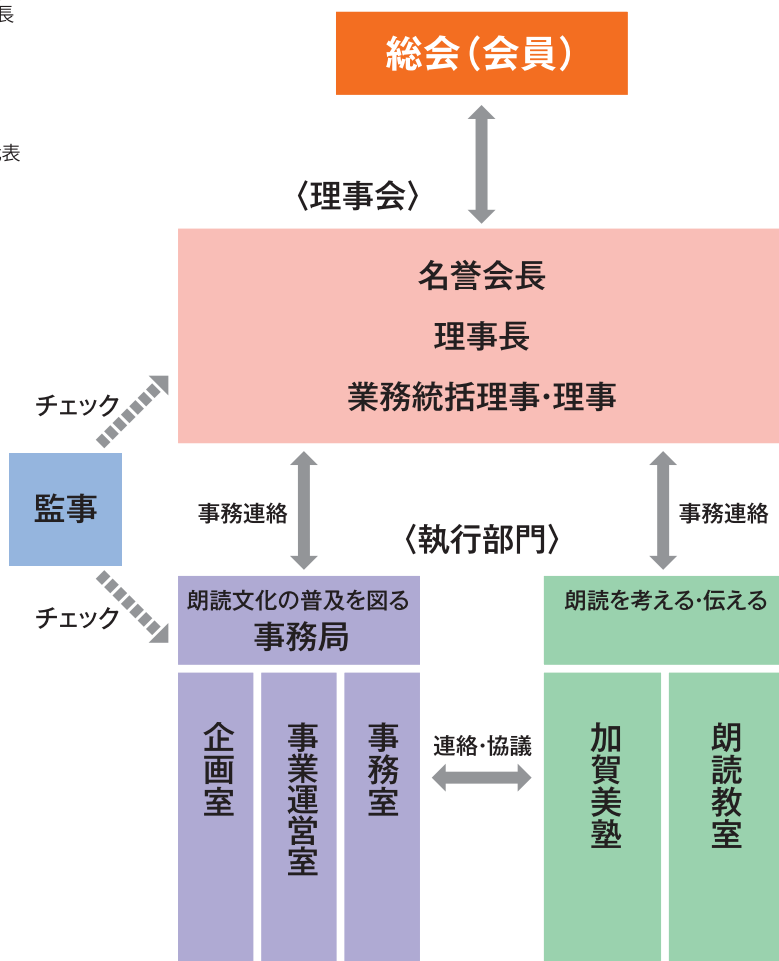
佐々木 富紀 佐藤 すみ江 塩田 睦子

早川 とし子 吉田 周子

事務室

○田中 邦子 菊地 崇之

(○室長)





ハプニング・ハズ・カム!

イベントにはハプニングはつきもの、といわれます。今回の「朗読の日」もその例にもれず、さまざまな「ハプニング」に見舞われました。

もっとも大きなものは、これまで10年にわたって演出を担当されてきた飯田輝雄さんが、1月に急逝されたことです。病床からも「朗読の日」の構成に関するアドバイスをいただき、体調が戻れば本番には復帰されるだろうと期待していた矢先の出来事でした。

そんな中で後任をお引き受けしたものの、すべてが手探り状

態。ともあれ飯田さんが創りあげてきた演出を継承しつつ、守るべきは守って行こうというスタンスを決めました。

でも、やはりハプニングはつきもの。最終本読みに音楽が間に合わなかったり、本番ではスクリーン映像の文字が読みづらく、あわてて修正をお願いしたり、舞台が暗くて転倒する人がいたり……。いま思い返しても冷汗が滲んできます。

とはいえ、大きな事故もなく本番を終えられたのは、協会員の皆さまやスタッフの方々のご協力に支えられたからこそです。演出家としては「感謝」の言葉以外ありません。

願わくば、今後はこうした想定外の「ハプニング」が起こらないようにと祈りつつ、決意を新たにしているところです。

(演出 倉田ひさし)



10分間に込められた「物語」

奥行きがずっと深く、声も年齢も違う中、表現も作品選びも何もかも自由な、それが「朗読」。沢山のお客様の心のあちこちに届いた朗読会…、そんな思いを今回多くのアンケートから改めて感じられた、嬉しい

第16回「朗読の日」となりました。今回初の試みとして、全出演者10分以内という企画の中でも、確かなその10分間に込められた「物語」からの発信には予想以上の反響がありました。それは単なる10分間の朗読作品ではなく、皆で真にその10分間に取組んだ、濃い結晶だったからなのでしょう。

お客様の感動の声、出演者の喜びの声、ステージを支えて下さった舞台スタッフ、ご指導頂いた先生方、ご協力頂いた企業・個人、そして協会スタッフ、事務局、協会一体となった「朗読の日」公演も、こうして今年度無事に収められましたこと、皆さまと共に喜びたいと思います。そして、ありがとうございました。

(第16回「朗読の日」実行委員長 山村都)



「朗読の日」初舞台

万葉集の研究者でもいらっしゃる小学校時代の恩師岡英雄先生の米寿を寿ぎ、憧れの「朗読の日」の舞台で「万葉集」を朗読したいと思いました。万葉集の中から、やはり魅力的なヒロイン額田王に絞りました。と飯島先生が原稿を創り上げて下さいました。

読む早さ、気持ちをどう込めて表すか、練習日の度に、越える山が大きくなっていきました。前日、初めて夫の仏前で何度も読むうちに、柔らかく言葉に心が乗り、何かつかめたような気持になりました。

演出の素晴らしさに助けられ、心のこもった読みができたと思います。

岡先生が喜んでくださり、そして私の最初の読み聞かせの聴き手長男が静かに笑顔で受け止めてくれたのも嬉しかったです。

(藤江 絹子)

お客様・出演者等の声 (アンケート140枚等から)

■ 全員10分以内の企画について

- ・作品も色とりどりで、テンポよく違う世界観を味わえた。
- ・気持ちよく心のサビが取れ、感動した。
- ・疲れを感じることなく、どの作品も素晴らしかった。

■ 協会講師の出演について

- ・存在感が違う。
- ・ステージが締まって、一層盛り上がった。
- ・ぜひ毎年出演してほしい。

■ その他お客様等の声

- ・初めて朗読会を見て、平面の本を三次元・四次元の世界に感じた。
- ・ことばの美しさを再確認した、本を読もう!
- ・上京の折りにふと立ち寄った朗読会、胸うたれた。
- ・本当の朗読に出会えた。
- ・舞台芸術のようだ、感動!...
- ・今までで一番良かった!
- ・年々上達している。
- ・洗練されていくステージに魅了された。
- ・博品館の「朗読の日」公演が、いろいろな朗読会の中で頂点!です。

- ・また来年も、ぜひ来ます!
- ・こんな演劇調もあるんですね。
- ・作品が終わった後ももう少し余韻を感じていたかった。
- ・もっと男性の声を聴きたかった。
- ・ステージごとに詩や若者グループを入れてほしい。

■ 「どの作品が気になりましたか」について

- ・どのステージもメッセージ性の強い作品が多かった。

■ 「奥の細道」について

- ・旅の紀行文を目で見て、聞いて、一緒に旅をしているようだった。
- ・先生が、本番では歌を詠みあげて下さった。
- ・もっと長く聴きたかった。

■ 倉田演出について

- ・いきいきと出演者が舞台の中で輝いていた。
- ・ステージがとても素晴らしく綺麗に出来ていた。
- ・初めての出演に感動した。
- ・優しい対応が嬉しかった。
- ・「スマートで自然な演出の中、いろいろ様々で充実感がありましたと加賀美先生より、閉会式で講評を頂きました。

■ 協会の今後へのエールや、城所前理事長へのメッセージも多く頂きました。

読み聞かせボランティア対象に「朗読講習会」

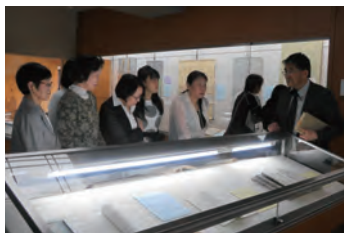
読み聞かせボランティアをしていらっしゃる方々を対象に「朗読の講習」の依頼とのことで、秋葉原からつくばエクスプレスで30分強、茨城県の守谷中央図書館に伺いました。会場は、吹き抜けのあるとても心地よい図書館の視聴覚室。小学校や図書館での読み聞かせを行っている8つのボランティアグループの代表の方々が集まりました。こちらの若い男性の司書さん、茨城県の朗読コンクールで優勝なさったとか…まずは、発声、滑舌練習、プロミネンスのつけ方、区切り方などの基礎練習、続いて各グループ持ち寄った本を朗読し、作者や内容についても話し合いました。あつという間の2時間！朗読の世界の広がりを感じた嬉しい時間でした。



2018年3月2日（飯島晶子）

古事記の旅

古典研究会では、この1年半「古事記」を学習してきましたところ、今回、5月20日に本居宣長記念館で「古事記」を朗読させていただく機会に恵まれました。午前中は古事記を音読する会に参加の皆さんと一緒に声を合わせて音読し、午後は私達の朗読をお客様に聞いていただきました。序段を原文で朗読し、朗読者10人が希望した段を調整して、原文と現代語の要約とで朗読しました。お客様は50人位で、古事記について関心があり知識をお持ちの方が多く、熱心に聴き入って下さいました。終了後は館長さんが館内を巡って詳しく解説して下さいました。松阪までの往路復路とも車内で一行は会話も弾み、とても楽しく密度の濃い有意義な一日でした。



（伊藤富美子）



八重洲朗読会

「八重洲ブックセンター」8階で（現在は）奇数月の一土曜日、4人の朗読会が14年続いております。百席の会場に150人の入場者で立見客が鯨詰になることも屢々。危険性を考え、木戸番係が折角のお客様をお断りしている現状では、最早伝説に聞こえますが、2005年に産声を上げてから第6回迄は僅か40人の来場者が20数人に減るギリ貧状態。

会員資格への関門「テープ審査」を取り決めたのは、八重洲からの「取止め」勧告に緊急召集した総会に於てです。会員の一致協力で起死回生の第7回には120人を集め、向上心に燃える読み手達の切磋琢磨が目を見張るようなレベルアップに繋がって、盛況の内に100回を超えました。構成、演出始め運営は35会員が年交代でグループ担当しています。

（望月鏡子）



2005.3.17 第2回7F特設会場にて



2005.9.24 第7回8Fギャラリーにて



2018.7.26 第108回

ルコント・サロン

時折、協会のごあんないやチラシでルコントの紹介を見て「ケーキ屋さんで朗読会とは、何て素敵なの」と思っていました。こんなところを探してくる委員さんたちの、なんと粋な事と感心しながら…。

会場の地下は思っていたより広くサッパリとした空間、私共は三人で野坂昭如原作の「火垂るの墓」を読んだのですが、この作品は合唱組曲になっていたものを車木容子さんという方が詩に構成し直したものです。従って原作やアニメ、映画などとは一味違い、衝撃的な描写や悲慘さが生々しく迫る、というのとは少し違うのですが詩的であるだけに、哀しみは深くなっていると思います。お客様もシーンと聴いて下さり作品の持つ悲しさが少しでも伝わったのなら嬉しいと…。



素敵な場所での素敵な体験有難うございました。

（深澤真理子）

ボランティアグループかもめ

かもめは今年3月23日恒例の朗読会を高輪区民センターで開催。催行までの準備期間が短く多少の不安を抱えながらの公演でしたが、会員の強力なバックアップのお陰で無事終了できました。集客は考慮の余地を残しましたが当日は会員のお誘いで学童のお子さん達が10数名参加してくださり、可愛い笑い声を響かせてくれました。

この5月16日に第11回総会を赤坂区民センター研修室にて開催。出席18名委任17名で成立。議題に添って議事が進行、活動に関しては前年に準拠。新役員も承認されました。やや低迷気味の「かもめ」を会員の声を頂きながら少しずつ改革して、定例会への出席や施設訪問への参加等会員皆が魅力を感じて下さる会にしていきたいと話しました。

年間の施設訪問予定には会員の皆様の積極的な参加を期待し

ています。

※9月12日定例会後かもめバザーを行います。到来品等不用品を持ってご参加下さい。

※10月17日はルコントでミニ朗読会を開催します。もう一度かもめの存在意義を再認識して頂き楽しく活動できるよう頑張ります！

(代表 富塚真佐子)



第11回かもめ朗読会

15年を振り返って



私にとっては突然のNPO日本朗読文化協会理事長のお役目でした。朗読のこと、NPO日本朗読文化協会のこと何もわからないまま瀬戸内寂聴様が立ち上げられたこのNPO日本朗読文化協会の理事長をつい「はい、お引き受けいたします。」と言ってしまうと、15年間。目まぐるしく日々が過ぎました。初めに私が立ち上げたのが運営委員会でした。ともかくこの協会をしっかりとしたものにせねばということ、朗読を大好きな会員さんを応援したいとの思いで、走り続けてま

いました。八重洲ブックセンターに「本屋さんなのだから、朗読会しましょうよ」と言って、初めは数名のお客様だけの会から初めて108回（5月現在）。ハリウッド株式会社に出向き「御社と当協会の年齢層が同じですから、外から、心から美しくという会をしませんか」とヒルズ朗読会を。コンクールで外部の朗読者を誘いたいと。いろいろNPO日本朗読文化協会の発表の場作りを専念しました。私にはNPO日本朗読文化協会での「人との絆」が大きな財産となりました。楽しい日々でした。会員の皆様のご協力に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。（城所ひとみ）

報告 平成30(2018)年度 NPO日本朗読文化協会 総会議事録

1. 日時 平成30年6月28日13:00～14:30
2. 場所 港区赤坂4-18-13
赤坂コミュニティプラザ3F
港区赤坂区民センター4F 第一会議室
3. 正会員数 129名
4. 出席者数 90名（当日出席者24名 委任状66名）
5. 審議事項
 - (1) 議長選出の件
 - (2) 議事録署名人選出の件
 - (3) 2018（平成30）年度役員の内
 - (4) 定款改訂の件
 - (5) 2017（平成29）年度事業報告並びに収支決算書承認の件
 - (6) 2018（平成30）年度事業計画並びに収支予算案承認の件
6. 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (1) 議長選出の件、互選により城所ひとみ氏が議長に選出された。
 - (2) 議事録署名人選出の件、議事録署名人として岡田久美子氏及び佐々木富紀氏が選出された。
 - (3) 平成30年度の役員の内、理事に加賀美幸子氏、伊澤逸平氏、阿部侗奈氏が新任、城所ひとみ氏が理事を退任、岩本高明氏が監事に新任、伊澤逸平氏が監事を退任した。顧問は7名が再任された。
 - (4) 2018年7月から新体制による組織再編及び事務所移転に

伴うための定款改訂案が提出された。関連条項（総会資料2参照）は第二条（事務所）、第三条（目的）、第十一条（役員の種類及び定数）、第十二条（選任等）、第十三条（職務）、第十七条（顧問）、第十八条（会議種別）、第十九条（会議の構成）、第二十条（会議の機能）、第二十八条（議事録）、第七章（事務局及び運営委員会）、第三十七条（事務局及び運営委員会）、第三十八条（事務局の職務）、第三十九条（運営委員会の職務）。賛成多数で承認可決された。

- (5) 2017（平成29）年度事業報告並びに収支決算書承認の件（総会資料別紙別紙3参照）安田事務局長より配布資料を基に、平成29年度の事業が報告され、今泉税理士が収支決算報告を行った。引き続き、監事伊澤氏が欠席のため、議長城所ひとみ氏が代理で「会計監査結果収支決算書は会計帳簿と一致し、収支の状況を正しく示している」旨の監査報告書を読み上げられた。その後、賛成多数で承認可決された。
 - (6) 2018（平成30）年度の事業計画並びに収支予算案承認の件（総会資料4参照）安田事務局長より配布資料を基に、平成30年度の事業計画及び予算案（経常収支は会費の値下げ、及び事務所移転に伴う出費のため、104万円の赤字になる）の説明がなされ、賛成多数で承認可決された。
- 以上

掲示板 会員の朗読会と活動情報(2018.9~2018.12)

日時	公演名	場所	出演者名
9月1日	木の朗読会 Vol.12「名作を読む」	栃木県総合文化センター	青木ひろこ
9月1日・2日	「ホッとひといき」朗読会	山形・江鶴亭	松島邦
9月2日	演劇集団JIBA新涼発表会「樋口一葉を読む」	スタジオ阿弥陀	菊地崇之
9月6日	リーディングカフェVol.26「芥川龍之介の世界」	宇都宮・パ・ド・ドゥ	青木ひろこ
9月13日	語りの会 ぼてふり 第14回公演	深川江戸資料館・小劇場	内藤和美
9月13日	リーディング・カフェ Vol.26	宇都宮・パ・ド・ドゥ	青木ひろこ
9月14日	みずゞ童謡詩 朗読会	港区生涯学習センター(ばるーん)	児玉朗教室
9月17日	朗読を楽しむ会〜ピオラの音色に乗せて〜家族を読む	栃木文化会館小ホール	茂呂久美子
9月19~22日	魔女たちの朗読会 Part.2	表参道MFYサロン	河崎早春
9月20日	ふたりの部屋「にこりえ」	ティアラこうとう小ホール	市原タツ子・古内恵美子
9月22日	第73回ハートストリングス 語りと朗読の会	ハートストリングス	内藤和美
9月22日	八重洲朗読会	八重洲ブックセンター本店ギャラリー	植田聖子・塩田睦子・杉浦貴子・土岐志のぶ
9月25日	「月結」第11回公演 能物語「平家女人抄」祇王・小督	栃木県総合文化センター	青木ひろこ
9月26日	よみかたる「すずし」朗読会3-	両国門天ホール	柴田純子
9月26日	Tea Time 朗読会 Part.8	紀尾井町サロンホール	河崎教室有志
9月28日	平和を考える集い	日本キリスト教婦人矯風会1Fホール	稲本由美子・白田敦子・早川とし子・松島邦 宮内佳代子・安田綾子・渡部玲子
9月29日	大人のための童話の時間	秋田・アトリオン4F	安倍真壽美
9月30日	語りつごうあの日あの頃 一敗戦直後の日本一	新宿安与ホール7F	松島邦
10月1日	お伝と伝じろう「声だけで伝えよう」	Eテレ	飯島晶子
10月4日	綾・紋の会 大人のための	茂原市立図書館	佐藤すみ江
10月4日	「朗読フェスタ」2018	札幌・渡辺淳一文学館	杉浦貴子
10月6日	石坂洋次郎記念館30年記念朗読会「石坂洋次郎を読む」	秋田・横手高校講堂	安倍真壽美
10月7日	第70回とんからりん	湯島・コラボレートCAFÉとらねけあ	吉川京美
10月7日	絵本でおさんぽ「お話し会」(毎月第一日曜日開催)	紀伊国屋書店新宿本店	赤間立枝
10月14日	碧の会 朗読会	小山口プレホール	青木ひろこ
10月18日	秋の朗読会	錦糸町テルミナ6F	永井喜代子
10月19日	Quattro Contento第2回朗読会「男と女 恋のゆくえ」	3×3 Lab Future	阿部俐奈・稲本由美子・三上実枝子・安田綾子
10月23日	ナターシャ・グジーコンサート「ふるさと」	かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホール	飯島晶子
10月23日	岩崎加根子と「和ら三凡」と野間周平	千代田区立内幸町ホール	坂本有子・宮崎弥生
10月26日	青山の屋下がり	千代田区立内幸町ホール	川口和代・松本由美子・望月鏡子
10月27日	秋宵幻想夜話「猫町」他 withアコーディオン	宇都宮・カフェマリオ	青木ひろこ
10月28日	秋の朗読会	葛飾区中央図書館	柴田純子
10月28日	ライブリーディング vol.7 朗読劇「とりつくしま」	せんだいメディアテーク7F	長野淳子
11月8日	リーディングカフェ「私と踊って」ダンスと共に	宇都宮・パ・ド・ドゥ	青木ひろこ
11月9日	坂口安吾とエリック・サティの世界	紀尾井小ホール	飯島晶子
11月11日	秋宵幻想夜話「猫町」他 withアコーディオン	三鷹・ローズルーム	青木ひろこ
11月12日	いきものがたりIX ~狐~	新橋・アトムC Sタワー	稲本由美子
11月18日	故西澤和子追悼「長月の会」朗読会	山形・江鶴亭	松島邦
11月19日	ものがたり図絵 そのIX	紀尾井町サロンホール	渡部玲子
11月20日	社協朗読サロン憩	わかばキリスト教会	市原タツ子
11月20・21日	ぶれさんぼうず 秋の会	千代田区立内幸町ホール	内藤和美
11月28日	第3回朗読の集い「睦」	千葉市生涯学習センター小ホール	市原タツ子・佐藤すみ江・関まさ子・堀越幸子 吉田周子・和田幸子
12月1日	それは恋~古典より	徳島グランヴィリオホテル	岩瀬弥栄子
12月5日	公津の杜朗読会	ユアエルム成田3F	永井喜代子
12月9日	ピアノ・朗読と木管アンサンブルリングによる冬のコンサート	宇都宮・聖ヨハネ教会	青木ひろこ
12月12日	第6回 花かご朗読会	札幌円山・花笑夢	杉浦貴子
12月15日	ふるさとの画家・橘小夢の妖美「絵を語り・絵を奏で・絵を舞う」	秋田市文化会館大ホール	安倍真壽美
12月16日	たまゆらの会 朗読劇「川上弘美を読む」	さくら市氏家図書館	青木ひろこ
12月23日	朗読とフィドルによる冬の贈りもの	宇都宮・コムラ・ボア・ラクテ	青木ひろこ
12月24日	明日館クリスマス礼拝	自由学園明日館	飯島晶子
1月27日	「耳よりな」朗読会8」	千代田区立内幸町ホール	河崎早春

事務局からのお知らせ

★事務員柳瀬孝子さんが退職され、箱崎令子さんが入られました。

★朗読アラカルト

9月初旬に出演者募集予定です。

★八重洲朗読会への登録審査申し込み

締切は、年2回3月末・9月末です。ご希望の方は、事務局へお申込みください。

★会員情報2018年4月~7月新入会

本間尚子・佐久間勝衛・岩内瑛子・伊藤牧子・中村恵子
恩田美穂・力徳茉莉子

編集後記

2001年暮れ博品館劇場に多くの記者の方にお集まりいただき記者会見が行われNPO日本朗読文化協会が誕生しました。会員皆の努力で現在の協会があるのです。今後の更なる発展も期待したいところです。このところ地震、台風、洪水、日本、海外とも猛暑、そして山火事、この地球上何が起きているのか、私達人類への警鐘でしょうか。

(伊吹よし子・早川とし子・佐藤すみ江・田中邦子)